



東日本大震災をわすれない

自然が原因となっておこる災害には、いろいろなものがあります。このリーフレットは、災害から命を守るために みなさんができることをまとめました。絵を見ながら、話し合ったり調べたり、実際に訓練したりすることができるようになっています。先生や家族といっしょに学習し、日頃から自然災害に備えるようにしてください。

雷・竜巻に注意!

※高い木の下などにはぜったいに近づかない!!



急に冷たい風がふいたり、黒っぽい雲が近づいてきたりしたら、雷や竜巻がおこるかも知れません。すぐに丈夫な建物の中に避難しよう。

知って得する応急手当

やけどのとき

水で冷やそう。水ぶくれができていてもつぶさない。

打撲などでいためたとき

動かさないようにしよう。



あたまをうったとき

冷やして静かにすごそう。気分が悪いときはすぐに病院へ行こう。

ガラスなどで切ったとき

ガーゼなどで傷をおさえ、血をとめ、すぐに病院へ行こう。



◎けがをしたらどこをどうしたのか

まわりの人にはっきり知らせよう。

◎倒れている人や具合の悪い人を見たら、すぐにまわりの人に知らせよう。

◎からだをゆすってはいけません。

すりむいたとき

傷口を水であらい、消毒をしよう。



AEDを知っていますか!

AEDは、だれでも使うことができる「命を救う」機械です。心停止をしてたおれている人をそこに居る人たちがその場で使って救うことができます。



東日本大震災をわすれない (小学生版) 2020(令和2)年1月発行 川崎市教育委員会 行先 よだひでき

非常持ち出し品のリスト

- 貴重品 キャッシュカード・保険証・現金 など
- 携帯ラジオ (予備の電池も用意しよう) ●ヘルメットや防災頭巾
- 懐中電灯 (予備の電池も用意しよう) ●レインコートなど雨具
- 携帯電話 (充電器も用意しよう) ●非常食 (3日分程度あるとよい)
- 救急医薬品 ●着るものやぼうし・ぐんてなど
- メモ帳・筆記用具・ティッシュやウェットティッシュ など

地震だ! 頭を守って 命を守る!!

〈学校にいるときだったら〉

教室では 机の下にもぐろう。

理科室や家庭科室では たなから離れ、頭を守ろう。ゆれがおさまったら火を消そう。



昇降口では たおれたり、落ちてきたりするものからすばやく離れ、頭を守ろう。

体育館では まん中に集まろう。



うらにわや校舎のまわりでは

校舎のそばや 塀の近くから離れよう。

校庭では 校庭のまん中に集まろう。



廊下や階段では

「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で身をかがめ、頭を守ろう。



登下校中では

- 自動販売機やブロック塀など、たおれてくるものから離れよう。
- 看板や屋根のかわらなど、落ちてくるものからランドセルやかばんなどで頭を守ろう。



外にいるときだったら

でかけているときに、地震にあったらどうしたらよいでしょう。友達や家族とでかけたときに実際にたしかめたり調べたりしておきましょう。あわてないで友達やまわりの人と助け合うことが大切です。

スーパーにいたら

- かかりの人の指示に従って避難しよう。
- たおれたり落ちてくるものからすばやく頭を守ろう。



道を歩いていた

自転車で走っていたら

- 自動販売機やブロック塀など、たおれてくるものから離れよう。
- 看板や屋根のかわらなど落ちてくるものからかばんなどで頭を守ろう。
- すぐに自転車からおりよう。



電車やバスに乗っていたら

あわてずに放送や運転手の指示に従おう。



トイレの中では

- ドアを少しあけよう。
- ドアが開かなくなったら大声で助けをもとめよう。



避難するときの約束

おさない



はしらない



しゃべらない



もどらない



公園や広場にいたら

- 広いところに集まり、しゃがんでゆれがおさまるのを待とう。
- 体の不自由な友達や小さい子どもなど、みんなで声をかけあい助け合おう。
- 地面が割れることがあるので気をつけて避難しよう。



川や海にいたら

津波がくることもあるので、すぐに川や海から離れ、高い所に避難しよう。



エレベーターの中だったら

エレベーターは近くの階に自動停止するものもありますが、そうでない場合に備え、すぐにすべてのボタンを押し、停止した階でおりよう。ドアが開かずに閉じこめられたら、緊急用インターホンで連絡したり、音を出したりして助けを待とう。



大雨だ！土砂災害に注意！！

台風や大雨のときには、次のことに注意しよう。

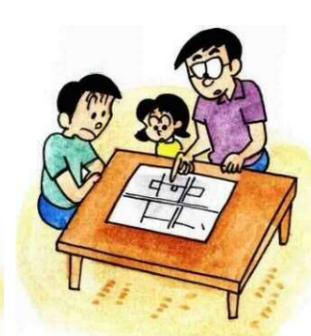
- 天気予報に注意！
- むやみに外へ出ない。



●非常持ち出し用の袋の準備



●家族で避難場所と避難コースの確認



避難はすばやく！！

- 高い所へ避難しよう。
- 避難するときは、必ず2人以上で行動しよう。
- 大人の方の指示に従って行動しよう。
- がけの下や橋などはさけて避難しよう。

棒を使って避難

水につかっている所は、段差がわからなくなっています。また、マンホールのふたが開いていることもあります。「棒」を使って足下を確認しながら避難しよう。



平成25年10月 伊豆大島土石流災害 (川崎市消防局より)